

厚生労働省
群馬労働局発表
平成26年7月28日

【照会先】
群馬労働局労働基準部健康安全課
課長 寺村 裕司
主任産業安全専門官 長谷川隆雄
課長補佐 桑原 茂
(電話) 027-210-5004

平成26年上半年期の労働災害が増加（速報値）
－死亡者数は過去10年間で最悪－

厚生労働省群馬労働局（局長 内田昭宏）管内では、平成26年1月から6月までの労働災害による休業4日以上¹の死傷者数は1,024人で、前年同時期に比べ140人増加（増加率15.8%）、死亡者数は17人で前年同時期に比べ12人増加しています。

1 労働災害の発生状況（表1から4参照）

平成26年1月から6月まで（上半期）の労働災害発生状況（速報値）は、休業4日以上¹の死傷者数（以下「死傷者数」という。）は1,024人、死亡者数は17人でした。

死傷者数は前年同時期に比べ140人増加しており、15.8%増で、全国平均の増加率3.6%を大幅に上回り厳しい状況になっています。

なお、増加率を四半期ごとにみると、第1四半期（1～3月）が前年同期比32.1%増、第2四半期（4～6月）が4.4%増となっております。

（1）業種別

ア 死傷者数が多い業種

業種	死傷者数	前年同期比増減数	増減率(%)	全産業に占める割合(%)
①製造業	321	33	11.5	31.3
				(製造業に占める割合)
食料品製造業	82	-3	-3.5	(25.5)
金属製品製造業	58	5	9.4	(18.1)
輸送用機械器具製造業	42	6	16.7	(13.1)
②交通運輸・貨物取扱業	150	11	7.9	14.6
道路貨物運送業	125	9	7.8	12.2
③建設業	128	25	24.3	12.5
建築工事業	77	14	22.2	7.5
土木工事業	28	8	40.0	2.7
その他の建設業	23	3	15.0	2.2
④卸売・小売業	118	35	42.2	11.5
小売業	100	26	35.1	9.8
全産業計	1024	140	15.8	100.0

イ 死亡災害

死亡災害を業種別にみると、製造業6人（前年同期比4人増）、建設業5人（同4人増）、交通運輸業2人（同2人増）、その他の事業4人（同2人増）となっています。

(2) 事故の型別の状況

ア 全産業

年	型別	転倒	はさまれ 巻き込まれ	墜落・転落	その他	合計
全産業(人)		359	146	160	359	1,024
割合(%)		35.1	14.3	15.6	35.1	100.0
前年増減比(%)		56.8	-3.9	7.4	1.4	15.8

(表5参照)

イ 死傷者数が多い業種

年	型別	転倒	はさまれ 巻き込まれ	墜落・転落	その他	合計
製造業(人)		90	85	26	120	321
割合(%)		28.0	26.5	8.1	37.4	100.0
前年増減比(%)		50.0	-9.6	-7.1	13.2	11.5
交通運輸・貨物取扱業(人)		45	16	37	52	150
割合(%)		30.0	10.7	24.7	34.7	100.0
前年増減比(%)		36.4	-23.8	-7.5	15.6	7.9
建設業(人)		20	16	49	43	128
割合(%)		15.6	12.5	38.3	33.6	100.0
前年増減比(%)		81.8	60.0	28.9	-2.3	24.3
卸売・小売業(人)		66	6	8	38	118
割合(%)		55.9	5.1	6.8	32.2	100.0
前年増減比(%)		100.0	100.0	33.3	-7.3	42.2

(3) 年齢別の状況

ア 全産業

業種	年齢	～19歳	20～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合計
全産業(人)		23	105	165	232	260	239	1024
割合(%)		2.2	10.3	16.1	22.7	25.4	23.3	100.0
前年増減比(%)		15.0	-4.5	-5.7	19.0	29.4	30.6	15.8

イ 死傷者が多い業種

業種	年齢	～19歳	20～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合計
製造業(人)		10	39	50	86	74	62	321
割合(%)		3.1	12.1	15.6	26.8	23.1	19.3	100.0
前年増減比(%)		66.7	14.7	-32.4	13.2	34.5	44.2	11.5
交通運輸・貨物取扱業(人)		2	13	26	45	42	22	150
割合(%)		1.3	8.7	17.3	30.0	28.0	14.7	100.0
前年増減比(%)		-	8.3	-7.1	40.6	5.0	-18.5	7.9
建設業(人)		5	16	20	27	25	35	128
割合(%)		3.9	12.5	15.6	21.1	19.5	27.3	100.0
前年増減比(%)		-28.6	-5.9	-4.8	68.8	31.6	52.2	24.3
卸売・小売業(人)		1	10	13	19	43	32	118
割合(%)		0.8	8.5	11.0	16.1	36.4	27.1	100.0
前年増減比(%)		-50.0	-23.1	-7.1	18.8	115.0	77.8	42.2

(4) 経験年数別の状況

経験年数別	1年以内	1年超～3年以内	3年超～5年以内	5年超～10年以内	10年超～30年以内	30年超	合計
死傷者数	302	173	112	166	227	44	1024
全体に占める割合(%)	29.5	16.9	10.9	16.2	22.2	4.3	100.0
前年同期比(%)	11.0	16.1	9.8	30.7	14.6	22.2	15.8

(5) 四半期ごとの増減率

業種	平成26年上半期					
			第1四半期		第2四半期	
	死傷者数	前年同期増減率(%)	死傷者数	前年同期増減率(%)	死傷者数	前年同期増減率(%)
①製造業	321	11.5	150	27.1	171	0.6
食料品製造業	82	-3.5	42	23.5	40	-21.6
金属製品製造業	58	9.4	32	77.8	26	-25.7
輸送用機械器具製造業	42	16.7	19	35.7	23	4.5
②交通運輸・貨物取扱業	150	7.9	65	6.6	85	9
道路貨物運送業	125	7.8	55	10.0	70.0	6.1
③建設業	128	24.3	58	41.5	70	12.9
建築工事業	77	22.2	31	29.2	46	17.9
土木工事業	28	40.0	14	55.6	14	27.3
その他の建設業	23	15.0	13	62.5	10	-16.7
④卸売・小売業	118	42.2	54	74.2	64	23.1
小売業	100	35.1	44	57.1	56	21.7
全産業計	1024	15.8	482	32.1	542	4.4

2 労働災害の増加に対する対策の実施

群馬労働局では、死傷者数が平成24年と25年の2年連続で増加したことに加え、平成26年度第1四半期も増加している状況を踏まえ、災害が多い業種及び増加した業種に対して重点的な安全衛生指導の実施のほか、関係団体への要請等の取組を実施したところです。今後、死亡者数を含む死傷者数の削減を図るため、この取組み実施結果を検証して、さらなる災害防止対策を推進します。

表1



※死亡者数は死傷者数の内数です。

※平成22年より、脳・心臓疾患、精神疾患の死亡者数を含みます。

表2

平成26年 労働者死傷病報告受理件数表

平成26年6月末現在
群馬労働局

業種別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
製造業	2 58	105	1 23	2 101	11	21	1 2	6 321	2 288	4 33
食料品製造業	1 15	40	1 2	17	4	4		2 82	85	2 -3
金属製品製造業	12	16	8	20		2		58	53	5
輸送用機械器具製造業	4	8	1	2 24		5		2 42	36	2 6
鉱業		1						1	3	-2
建設業	39	44	6	4 26	1 8	3	2	5 128	1 103	4 25
土木工事業	10	6	1	5	4		2	28	20	8
建築工事業	20	33	4	2 13	1 4	3		3 77	1 63	2 14
その他の建設業	9	5	1	2 8				2 23	19	2 4
交通運輸・貨物取扱業	28	62	5	2 42	7	5	1	2 150	139	2 11
道路貨物運送業	23	50	5	2 37	4	5	1	2 125	116	2 9
林業	4		4		2	3	1	14	15	-1
上記以外の事業	79	2 151	45	79	1 26	12	1 18	4 410	2 336	2 74
小売業	17	1 41	13	17	1 9	3		2 100	74	2 26
通信業	12	16	4	9	1	1		43	33	10
社会福祉施設	5	14	3	4	2		1	29	38	-9
旅館・ホテル業	1	1 6			5		1 7	2 19	15	2 4
飲食店	8	11	4	5				28	22	6
計	2 208	2 363	1 83	8 248	2 54	44	2 24	17 1024	5 884	12 140
前年同期	2 194	2 314	57	1 206	36	48	29	5 884		
増減	14	49	1 26	7 42	2 18	-4	-5	12 140		

災害の種類別

災害の種類別・署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
転倒災害	85	133	24	72	19	17	9	359	1 229	-1 130
食料品加工用機械災害		7	2	2				11	18	-7
建設機械災害	4	3	2	1 3	2		1	1 15	14	1 1
クレーン・玉掛災害	1	8		1 4	1	1	1	1 16	12	1 4
外国人の災害	1	10	3	19	1	2	1	37	42	-5
公共工事の災害		4	1	4	2		1	12	13	-1
交通労働災害	4	16	8	2 16	1 7			3 51	46	3 5
荷主先災害	6	24	3	20	2	1		56		

- 注1 この表は、死亡及び休業4日以上の労働者死傷病報告を集計しています。
 2 各項目の下欄は死傷者数合計、上欄は死亡者数で下欄の数の内数です。
 3 前橋署欄は、伊勢崎分庁舎と合算した集計です。
 4 下の表は災害の種類別で、特に項目を設定して集計しています。

平成26年 死亡災害発生状況

平成26年6月末現在
群馬労働局

業種 \ 年	24年	25年	26年	対24年比	対25年比
製造業	1 ()	2 ()	6 ()	5 ()	4 ()
鉱業	()	()	()	()	()
建設業	()	1 ()	5 ()	5 ()	4 ()
交通運輸業	2 ()	()	2 ()	()	2 ()
貨物取扱業	()	()	()	()	()
林業	1 ()	()	()	-1 ()	()
その他	3 ()	2 ()	4 ()	1 ()	2 ()
計	7 ()	5 ()	17 ()	10 ()	12 ()

※ () の件数は、脳・心臓疾患、精神障害を内数で表す。

表4

平成26年死亡災害事例（建設業以外）

（脳・心臓疾患、精神障害を除く）

平成26年6月末現在
群馬労働局

番号	発生月 発生時間帯 労働者数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	業種	事故の型別	起因物別	署別
1	1月 10時頃 6人	55歳 男 整備士	整備工場内でワンボックスカーの後部を上げてうまで支えて後輪を2本外した状態で車体の下に上半身を入れて作業していたところ、なんらかの理由でうまから車体が落ち、はさまれた。	自動車 小売業	はさまれ・ 巻き込まれ	その他の 用具	前橋
2	1月 4時頃 110人	60歳 男 配達員	新聞配達のため県道をバイクで走行中、対向の乗用車がはみ出してきて正面衝突した。	新聞販 売業	交通事故	乗用車等	沼田
3	2月 3時頃 29人	54歳 男 運転手	トラックで国道を走行中、停止していた大型トラックに追突した。	一般貨 物自動車 運送業	交通事故	トラック	太田
4	2月 7時頃 41人	55歳 男 製造工	作業者が機械装置の異常に気付き、確認したところ、機械装置と産業用ロボットの間に挟まれていた。	非鉄金 属製造業	はさま れ・巻き 込まれ	産業用ロ ボット	高崎
5	2月 15時頃 16人	71歳 男 雑務係	大雪のため、ホテルの駐車場で自車の中でエンジンを掛けて除雪車を待っていたと思われる被災者が、一酸化炭素中毒死の状態で見えられた。	旅館業	有害物と の接触	有害物	中之条
6	2月 1時頃 9人	66歳 女 清掃係	雪が降り続きホテルの駐車場で自車の中でエンジンを掛けて雪の状態を見ていたと思われる被災者が、翌朝、一酸化炭素中毒死の状態で見えられた。	旅館業	有害物と の接触	有害物	前橋
7	2月 11時 6人	53歳 男 製造工	惣菜の調理場で、揚げ物を調理中、油の入った鍋に両腕を付いたため肘以下火傷を負った。病院で3月に低酸素脳症で死亡した。	その他 の食料 品製造 業	高温・低 温の物と の接触	その他の 装置、設 備	桐生
8	4月 14時頃 35人	46歳 男 製造工	製品を脱脂・洗浄を行う洗浄槽において、有機溶剤を排出した後の槽内底部に沈殿した鉄粉等のヘドロを清掃する作業中、槽内で昏倒し、17日後に搬送先の病院で死亡した。	自動 車・同 付属品 製造業	有害物と の接触	有害物	太田
9	5月 23時頃 25人	42歳 男 製造工	ウレタン成形機で作業中、成形機内にウレタンカスを発見し、それを除去しようと成形機の可動範囲に立ち入ったところ、成形機が稼働しフレーム部分に胸部が挟まれた。	自動 車・同 付属品 製造業	はさま れ・巻き 込まれ	その他 の一般動 力機械	太田
10	5月 19時頃 16人	46歳 男 運転手	大型トレーラを運転し東京での荷卸しを終え、本社の館林に戻るため高速道路を走行中、本線とパーキングエリア分離帯に設置された衝突緩衝用クッションドラムと案内標識に激突した。	一般貨 物自動車 運送業	交通事故	トラック	太田

表4

番号	発生月 発生時間帯 労働者数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	業種	事故の型別	起因物別	署別
11	6月 15時頃 2人	45歳 男 製造工	会長所有の山林の手入れのため山林に入り、高さ約24m、胸高直径32cmの杉をチェーンソーで伐倒したところ、伐根から地上3.5mのところまで裂け、天秤状態になり、伐木の近くに立っていた被災者に激突し、反動でそのまま約38度の法面を滑落し、死亡した。	食料品 製造業	激突され	立木等	高崎
12	6月 16時 15人	61歳 男 製造工	生コン製造終了後、プラントのミキサの清掃作業（通常10分程度の作業）を単独で開始しが、30分程しても戻らなかったため、同僚が様子を見に行ったところ、右大腿部をミキサー内の攪拌機に挟まれた状態で、死亡した。	セメント・同 製品製造業	はさま れ・巻き 込まれ	混合機	中之条

(建設業)

番号	発生月 発生時間帯 店社人数・現場人数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	発注者	事故の 型別	起因物別	署別
1	1月 13時頃 8人、11人	51歳 男 据付工	工場構内の屋外で移動式クレーンで機械装置を吊り上げて据え付け作業を行っていた。吊り荷が揺れて単管足場上にいた被災者が吊り荷を避けようとして3.5m下の地上に墜落した。	民間	墜落・転落	移動式クレーン	太田
2	3月 11時頃 3人、3人	50歳 男 解体工	スレート屋根上で屋根の解体作業をしていたところ、スレートを踏み抜き、4.5m下の土間に墜落した。	民間	墜落・転落	屋根等	太田
3	3月 10時頃 120人、132人	31歳 男 運転者	建設工事現場で、内装の配線作業を行っていた被災者が、高所作業車(作業床の高さ10m未満)の手すりや上部配管ラックに首・胸部付近を挟まれた。	民間	はさま れ・巻き 込まれ	高所作業車	太田
4	5月 16時頃 1人、5人	59歳 男 大工	木造2階建住宅新築工事現場で、屋根の垂木を平行に設置するため一時的に垂木に設置した部材(以下「胴口」という。)を他の場所で使用するため、高さ約3.3メートルの梁に上り胴口を取り外し中、バランスを崩しコンクリート製基礎まで墜落した。	民間	墜落・転落	屋根等	沼田
5	6月 16時頃 80人、8人	23歳 男 電工	電車の架線の上で、高圧線(6600V)及び高圧アレスター(落雷等による過電流を逃がす装置)の付け替え作業中、高圧線の通電部に接触し感電した。	民間	感電	送配電線等	太田

表5

上半期の年別・事故の型別の労働災害発生件数

